

ノリ漁場の特性評価に関する研究

有明海研究所

背景、目的

有明海の栄養塩は経年的に減少傾向にあり、漁場によってノリの色落ち状況も異なります。そこで、漁場毎のノリの色落ち発生頻度、海水中の栄養塩（無機態窒素）、流速を把握し、漁場の特性を評価しました。

成果の概要

(1) ノリの色落ち発生頻度

ノリ葉体の明度（L値）を測定してノリの色落ち発生頻度をみると、筑後川河口に近い北部海域では色落ちの発生が少なく、中部沖合域で色落ちが発生しやすい傾向がみられました。

(2) 海水中の栄養塩濃度の分布

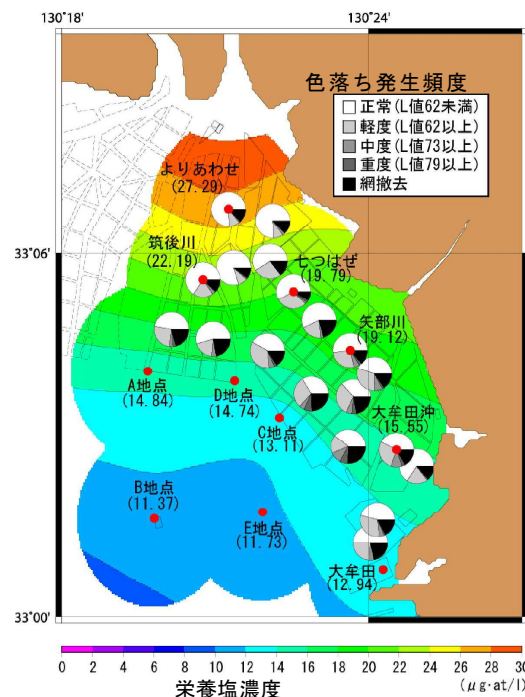
栄養塩濃度は、北部海域で高く、沿岸から沖合に行くにしたがって低くなる傾向がみられました。

栄養塩濃度の分布はノリの色落ち発生頻度とほぼ一致する結果でした。

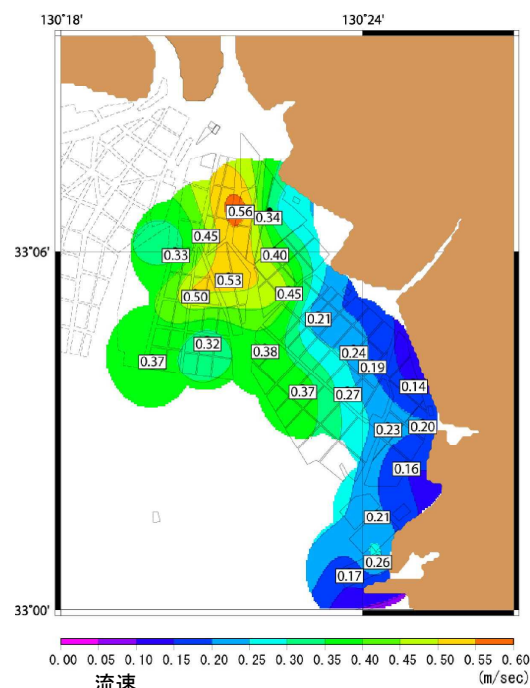
(3) 流速の分布

潮位200cm以上での平均流速は、北部海域で平均0.4~0.5m/秒と速く、中部沖合域は0.2~0.3/秒、中部沿岸域及び南部海域は0.1~0.2m/秒でした。

このようにノリ漁場の特性は、栄養塩をもたらす筑後川からの距離や流速によって大きく異なり、ノリの色落ちを指標とした生産性は、北部海域、中部沿岸域・南部海域、中部沖合域の順で高いことが海域環境の面からも明らかになりました。



ノリの色落ちの発生頻度と栄養塩の分布



平均流速の分布